

日本学術会議 北海道地区会議ニュース

発行 日本学術会議北海道地区会議

No. 51
2021-3

北海道地区会議新代表幹事からのご挨拶

第25期北海道地区会議代表幹事
(北海道大学大学院医学研究院院長)

吉岡 充弘

今回、日本学術会議北海道地区会議第25期(2020.10-2023.9)の代表幹事を拝命いたしました。北海道地区の科学者の情報交換の場のみならず地域社会との交流の場としての本地区会議の使命を果たせるよう、微力ではありますが、努力いたします。皆様のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本学術会議は、「科学者の国会」とも言われております。日本学術会議法によって定められ、国費によって運営される会議体です。第二次世界大戦後、国民の幸福に資する科学のあり方を実現するため、1949年に設立されております。現在は、内閣府のもとに設置されており、210名の会員は、内閣総理大臣によって任命されます。第一部が人文・社会科学、第二部が生命科学、第三部が理学・工学系に分類され、それぞれ、70名の会員により構成されております。更に約2,000名の連携会員を加えて、4つの機能別委員会、30の分野別委員会、10の課題別委員会を擁し、約50名の事務局によって運営されております。

これまでの報道にもありましたように、日本学術会議第25期の開始にあたり、第180回総会(令和2年7月9日)が推薦を決定した会員候補105名中6名について菅義偉内閣総理大臣が任命を見送りました。その後、日本学術会議は第181回総会(令和2年10月1~2日)において2点にわたる要望を決議し、会長から直接内閣総理大臣に手交しました。また、井上信治内閣府特命担当大臣(科学技術政策)と日本学術会議役員等との協議の場でもこの問題に

ついて提起してまいりました。しかしながら、現在にいたるまで6名の任命は行われておりません。そのため、日本学術会議法第七条に定められた会員210名をもって職務にあたるべきところが現員は204名にとどまり、日本学術会議の運営や職務の遂行に支障をきたす事態となっております。本年4月には第182回総会が開かれます。この総会は、政府とも協議を重ねながら検討を進めてきた日本学術会議のより良いあり方について意思決定すべき極めて重要な役割を担った総会であり、これが法の定めを満たさぬままに開催されることは避けられねばなりません。日本学術会議が適正な選考手続きを経て推薦したもののいまだ任命されていない6名を、速やかに任命されることを強く望みます。

現行法において日本学術会議は「行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的とする」とされています。科学技術の著しい発展と社会の複雑化の中で、個々の科学の領域では、対応できない難題も増えており、極めて高度の科学的知見に基づく科学的助言を必要とする場面が生じています。また、地政学的観点から、日本各地において人口密度も発展の度合いも一律ではありません。したがって、地域特有の課題や問題点について、中立的で客観的な科学的知見の提供を求められる場面の増加も想定されます。日本学術会議は、地域の科学者と意思疎通を図るとともに地域の学術振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の7つの地区会議を組織しています。これらの地区会議は、これまで地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行ってきました。北海道地区会議は、8名の会員と56名の連携会員から構成されております。この中から、10名の科学者の方において、運営協議会を組織しております。地区会議の主な役割は、科学者との懇談会の開催、学術講演会等の開

催、地区会議ニュース等の発行など地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする事業で、具体的には、市民公開学術講演会やサイエンスカフェを行って参りました。今後も、科学者が、市民と共に考えるべき重要なテーマを取り上げ、より多くの広

範囲な市民の方々に対して、日本学術会議の活動や最新の科学の話題を提供したいと思っております。会員、連携会員の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い致します。



第24期北海道地区会議の活動を振り返って

第24期北海道地区会議代表幹事
(北海道大学総長)

寶金清博

私は、北海道地区会議の代表幹事として、平成29年度下半期から令和2年度上半期を担当させていただきました。この間、会員、連携会員の皆さまの多大なご協力とご支援のおかげで、無事、大役を果たすことができました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。特に、私はこの間、北海道大学病院長を拝命しており、力不足でもあり、多くのことを地区会議の皆様をお願いして参りました。中でも、北大獣医学研究院の石塚真由美先生には、かなり、ご負担をおかけしました。大変な仕事も快くお引き受けいただいたこと、感謝しております。

私が代表幹事を拝命した期間、最も大きな仕事は、第一回目の日本学術会議 in 北海道の開催でした。これは、第24期の大きな方針であり、山極会長の強い意向で進められた「日本学術会議の地方展開」である「日本学術会議地区会議」の創設であり、第24期中核的な運動でした。日本学術会議の地方展開は、地域創生や「まち・ひと・しごと」など一連の地方展開とも連動しており、極めて重要な事業でした。

ただ、第一回目に手を上げるのは、モデルとなる前例がなく、開催形式、開催内容、規模などの点で、全く、一から始めることばかりで、非常に苦労したことも事実です。平成30年11月に開催することを決定しましたが、日常の研究活動に加えて、この大きなイベントを企画して下さったメンバーの先生方にはご負担をおかけしました。また、具体的な準備・サポートを戴いた北海道大学研究推進部の事務関係者に深く御礼申し上げます。

学術会議のメンバー制を考えると、専門的な学術の基盤に基づいた「アカデミア」としてのクロズドの会議という側面と、広く、国民に開かれたアカデミアの広報・対話活動と言うややベクトルの異なる活動をどのように調和させるかが課題であったと思います。

その結果、地区会議を二部構成としました。前半は、メンバー限定で、「多様性・共生の地域社会を目指して」というテーマで、北海道の会員、連携会員の皆さまから、それぞれの専門領域から話題を取り上げて、4つの話題を提供していただきました。それぞれが、北海道に深く関わる問題であり、アカデミアとしての地域への問題にどう関わるかという点で、活発な議論がなされました。

後半は、第3部会員の只野茂先生の企画により、一般公開の学術講演会を開催させていただきました。テーマは、Society5.0で北海道が変わる(AI・IOT・RT技術の地方深化)というテーマで、道外からの専門家2名を含めて3名のエキスパートによる素晴らしい講演が行われ、総合討論も行われました。

会終了後、これまで、地区会議では、会員同士の情報交換も希薄であり、まして、連携会員を含めた北海道地区会議のメンバーの交流は皆無であったことを考慮し、貴重な機会と考え、私の発案で、会員・連携会員懇親会を開催しました。参加費は、もちろん、自費負担でしたが、50名以上の参加を得て、全員が短い自己紹介をしていただいた上で、非常に活発な情報交換が行われました。やや自画自賛となりますが、その後、このコロナ禍で、こうした対面での情報交換が不可能になった現在、あの時期に、北海道の学術会議地区会議として、メンバーの深い交流ができたことは、大きな成果であったと思っています。

この平成30年11月の日本学術会議地区会議 in 北海道が最大の行事でした。しかし、これに加えて、例年通り、毎年、一般公開の学術講演会を開催しま

した。平成29年度には、「持続可能な世界にむけて、国連が採択した目標 (SDGs) と教育」というテーマで、旭川市 (北海道教育大学旭川校) で学術講演会を開催しました。札幌以外での開催は、私の知る範囲では、初めてのことであり、旭川地区の一般市民の方も多数参加されました。また、令和元年度には、「スポーツ・科学・社会」というテーマで、学術講演会を開催しました。これも、東京オリンピック開催を控え、アカデミアから見たスポーツの様々な側面を学ぶ機会が提供できたと考えています。

この他に、毎年、北海道大学Co-STEPのご協力

を得て、サイエンスカフェを開催し、一般市民向けのサイエンス解説の場を提供することができました。

現在、日本学術会議は、ご存知のような難しい問題に直面しています。ただ、地域での地道な活動の重要性は異論のないところですが、今後も第24期に端緒についた地区学術会議の発展が、日本学術会議の発展の一つの方向であることは間違いないと確信します。

第25期においても、北海道地区において、活発な地域活動が展開されることを期待しております。

学術講演会開催報告

北海道地区会議では、市民公開の講演会を毎年開催しています。令和2年度は、11月7日 (土) にオンラインにて開催しました。

以下に当日の講演内容を報告します。

「感染症との共存の現在と未来」

日時：令和2年11月7日 (土)

場所：北海道大学学術交流会館 (札幌市)

(オンラインでの開催)

報告：日本学術会議第二部会員

(北海道大学大学院獣医学研究院教授)

石塚 真由美

COVID-19の世界的な拡大により、経済活動、生活様式、教育の在り方など、大きな変革が求められています。一方で、COVID-19への対応の裏で、他の多くの感染症問題が後回しにされているとの警鐘も出されています。現在、国内外でどのような感染症が問題となっており、日本はどのような危機にさらされているのか、またCOVID-19との共存に向けてどのようなパラダイムシフトが起こっているのか、感染症の専門家を交えた情報の共有を行うとともに、これからの社会について考えるためにシンポジウムを企画しました。

また、One Healthという言葉があります。人の健康はそれだけで実現することはできず、ヒトの健康と、動物の健康、そして環境 (生態系) の健康を一つの健康としてとらえる考え方です。今回のシン

ポジウムは、この概念に基づき、大きく3つの感染症を取り上げるとともに、ヒトと動物、環境のかかわりをどのようにとらえるのか、に関して、皆様に共有できるよう、企画を組みました。

日本学術会議 北海道地区会議 学術講演会

WEB開催

「感染症との共存の現在と未来」

COVID-19の世界的な拡大により、経済活動、生活様式、教育の在り方など、様々な面で大きな変革が求められています。一方、COVID-19への対応の裏で、他の多くの感染症問題が後回しにされていることに、多くの専門家が警鐘を鳴らしています。現在、どのような感染症が問題となっており、またCOVID-19との共存に向けてどのようなパラダイムシフトが起こっているのか、専門家を交えた情報の共有を行うとともに、これからの社会について考えます。

令和2年 11月7日 (土)
13:30~17:00

事前参加申込制・オンラインでの開催
参加費無料 どなたでも参加頂けます

●講演:
「北海道の風土病・エキノコックス症への取り組み」
山野 公明 (北海道立衛生研究所感染症センター感染症部 部長)
「深刻化する国内の豚熱 (CSF) と差し迫るアフリカ豚熱 (ASF) の脅威」
迫田 義博 (北海道大学獣医学研究院 教授)
「コロナウイルス感染症」
神谷 亘 (群馬大学医学部 教授)
「生態系の中に存在する病原体と人間」
市和 宏明 (北海道大学獣医学研究院 教授、人と動物の共通感染症研究会 会長)

●座長: 吉岡 充弘 (日本学術会議第二部会員、北海道地区会議代表幹事、北海道大学大学院医学研究院 院長)
●司会進行: 石塚真由美 (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院 教授)

○申込方法
参加を希望される方は、11月5日(木)までに下記URL又は右のコードより申込みをお願いします。
URL ▶ <https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?MTID=60835a57c4b43b93235dc99493d53db01>

○お問い合わせ先
日本学術会議 北海道地区会議事務局 (北海道大学 研究推進部 研究振興企画課内)
Tel: 011-706-2155-2166 Fax: 011-706-4873
E-mail: kaijgi@research.hokudai.ac.jp
(Eメールアドレスのマークを念に読んでください)

※ 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置をとる場合があります。

【主催】 日本学術会議北海道地区会議、北海道大学

この状況下のため、会場に参加者が集まってシンポジウムを開催することは難しく、北海道地区会議としては初めてオンラインシステムを用いて、バーチャルでシンポジウムを開催しました。

司会進行：石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、
北海道大学大学院獣医学研究院教授）

（１）開会挨拶

13：30～13：40 日本学術会議副会長 望月 眞弓
（慶應義塾大学名誉教授・薬学部特任教授）
13：40～13：45 第25期北海道地区会議運営協議
会代表幹事 吉岡 充弘

（２）講演

13：45～14：15 「北海道の風土病・エキノコク
ス症への取り組み」
北海道立衛生研究所・感染症センター・山野 公明
部長

14：15～14：45 「深刻化する国内の豚熱（CSF）
と差し迫るアフリカ豚熱（ASF）の脅威」
北海道大学大学院獣医学研究院・迫田 義博 教授

15：00～15：30 「コロナ感染症」
群馬大学大学院医学系研究科・神谷 亘 教授

15：30～16：00 「生態系の中に存在する病原体と
人間」
北海道大学大学院獣医学研究院・苺和 宏明 教授
（人と動物の共通感染症研究会・会長）

（３）総合討論

16：00～16：55 座長 吉岡 充弘（日本学術会議
第二部会員、北海道大学医学研究院長）

（４）閉会の挨拶

16：55～17：00 但野 茂（日本学術会議第三部
会員・函館工業高等専門学校長）

今回も公開シンポジウムとして、オンラインで日
本学術会議副会長の望月先生にご挨拶をいただいた
後、会場から吉岡代表幹事にご挨拶をいただき、講
演会が開始されました。

日本学術会議北海道地区学術講演会（令和2年11月7日）...



開会挨拶をされる望月日本学術会議副会長
（オンラインでの参加）

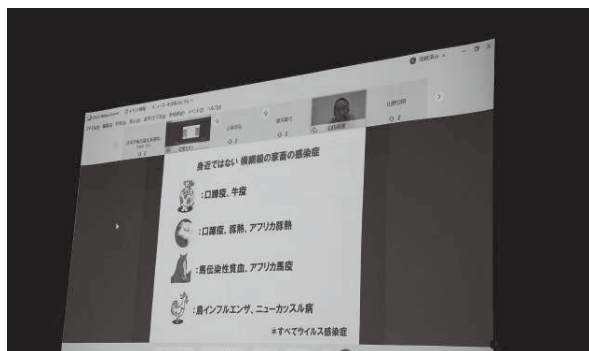
講演では、まず初めに、北海道の感染症として代
表的なエキノコックスを取り上げました。エキノ
コックスに感染しているキツネからは糞中にエキノ
コックスの卵が排出されます。この卵をネズミが口
から取り込むと、エキノコックスは肝臓に病巣を作
ります。ネズミがキツネに捕食されると、エキノコ
ックスは成虫になり、感染サイクルが成立します。こ
のサイクルの中に、人間が入る機会があると、ヒト
もエキノコックスに感染します。今回の講演会では、
エキノコックスの感染の仕組みから、その診断
方法、感染の状況など、長年この研究に取り組ん
でいる山野先生にご説明をいただきました。



講演中の山野北海道立衛生研究所部長

2つの目の講演では、現在国内で深刻な問題と
なっている豚熱に加えて、水際で国内侵入を防いで
いるアフリカ豚熱に関するご講演を、長年にわたり
研究し、国内での防疫にも携わっている迫田先生に
お話しいただきました。豚熱とアフリカ豚熱は名前
が似ていることから混同する方もおられます。しか
し、この2つの感染症は、全く異なるウィルスが原
因となっています。現在、日本国内では豚熱に対す

るワクチン接種を行っていますが、アフリカ豚熱はまだ使用できる有効なワクチンがありません。世界的にその感染が広がりつつあるアフリカ豚熱ですが、国内にこの感染症が侵入した場合、大変な経済的打撃を与えることが警鐘されています。



講演中の迫田北海道大学教授
(オンラインでの参加)

3つ目の講演では、現在パンデミックとなり社会経済まで、世界的に大きな影響を及ぼしているコロナ感染症に関して、これまでの研究を神谷先生にお話しいただきました。COVID-19は2003年に発生した重症急性呼吸器症候群 (Severe acute respiratory syndrome: SARS) コロナウイルスに近縁の新しいコロナウイルス (SARS コロナウイルス-2) です。1年でその感染拡大が終息したSARSに比べて、世界的に拡大してしまったCOVID-19ですが、そもそもコロナウイルスとはどのようなウイルスなのか、分かりやすく説明をいただきました。



講演中の神谷群馬大学教授

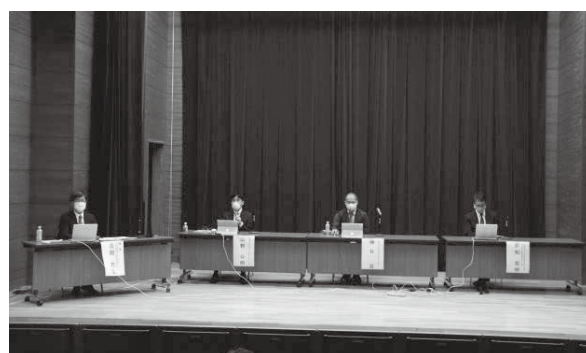
最後に、ウイルスなどの病原体がどこからきているのか、ヒトと動物と生態系のかかわりについて、「人と動物の共通感染症研究会」会長でもある荻和先生にお話しいただきました。多くの病原体は人獣共通感染症の原因ともなっています。インフルエンザ、狂犬病、コロナ感染症、エキノコックスなど、

いずれも人獣共通感染症に分類されます。人獣共通感染症の多くは、自然界の生態系、主に動物の中で維持されてきた微生物が、何かの拍子に人間社会に入り込み、人間の間で病気を起こすものです。今回の講演では、病原体とヒト、動物、そして生態系の関係を、感染症の例を挙げながら説明していただきました。



講演中の荻和北海道大学教授

講演の後、感染症に関する重要なトピックや参加者からの質問を基に進めるパネルディスカッションを行いました。初めてのオンライン、しかも会場からも中継するハイブリッド形式によるシンポジウムということもあり、十分なディスカッションができるか心配でしたが、パネルディスカッションでは、参加者から様々な意見や質問をいただき、吉岡代表幹事の座長の下、講演の先生方にお答えいただきました。専門的な質問から、一般の方からの疑問まで、様々なご質問をいただき、多くの情報を共有することができました。



総合討論

今回のシンポジウムは100名を超える参加申し込みがあり、このトピックに対する関心の高さがうかがえます。感染症の対応でお忙しい中、ご講演をいただいた先生方、ご参加をいただいた皆様に、心からの御礼を申し上げます。

令和2年度実施の地区事業（実施分）

○学術講演会

令和2年11月7日(土)
北海道大学学術交流会館（札幌市）
「感染症との共存の現在と未来」

参加者86名

概要

◇司会 石塚 真由美

（日本学術会議第二部会員，北海道大学大学院獣医学研究院教授）

◇挨拶 望月 眞弓

（日本学術会議副会長，慶應義塾大学名誉教授・薬学部特任教授）

吉岡 充弘

（日本学術会議第25期北海道地区会議運営協議会代表幹事，日本学術会議第二部会員，北海道大学大学院医学研究院長）

◇講演

「北海道の風土病・エキノコックス症への取り組み」

北海道立衛生研究所・感染症センター・部長
山野 公明

「深刻化する国内の豚熱（CSF）と差し迫るアフリカ豚熱（ASF）の脅威」

北海道大学大学院獣医学研究院・教授
迫田 義博

「コロナ感染症」

群馬大学大学院医学系研究科・教授
神谷 亘

「生態系の中に存在する病原体と人間」

北海道大学大学院獣医学研究院・教授，人と動物の共通感染症研究会・会長
荻和 宏明

◇総合討論 座長 吉岡 充弘

（日本学術会議第25期北海道地区会議運営協議会代表幹事，日本学術会議第二部会員，北海道大学大学院医学研究院長）

◇挨拶 俣野 茂

（日本学術会議第三部会員・函館工業高等専門学校長）

○北海道地区会議サイエンスカフェ

①令和3年1月29日（金）

オンライン／北海道大学から配信

「色から始まる変化のいろは～ソフトクリスタルにみる化学の新潮流～」

◇講師 加藤 昌子

（日本学術会議連携会員，北海道大学大学院理学研究院教授，北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー）

○北海道地区会議運営協議会

①令和2年5月27日（水）（web開催）

議題1 令和2年度日本学術会議北海道地区会議学術講演会について

報告1 日本学術会議サイエンスカフェの実施について（令和2年2月開催）

②令和2年9月11日（金）（文書開催）

議題1 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「感染症との共存の現在と未来（仮題）」の開催について

③令和2年10月2日（金）日本学術会議（東京都）

議題1 代表幹事について

議題2 運営協議会委員について

議題3 今年度の活動について

④令和2年11月7日（土）北海道大学（札幌市）

議題1 日本学術会議北海道地区会議運営協議会委員について


議題2 本年度の事業スケジュールについて


⑤令和3年3月8日(月)(文書開催)
議題1 令和3年度事業計画について


報告1 令和2年度日本学術会議北海道地区会議
事業実施報告について


北海道地区会議運営協議会委員紹介


第25期日本学術会議北海道地区会議の運営委員を紹介します。


氏名	石塚 真由美 (いしづか まゆみ)	第二部会員
	所属・職名	北海道大学大学院獣医学研究院・教授
	所属委員会(日本学術会議)	食料科学委員会、環境学委員会
	研究分野(研究テーマ)	毒性学(化学物質の生体内代謝と動態、化学物質感受性の動物種差の機序解明)、 環境毒性学(環境化学物質のフィールド調査、毒性メカニズム)


氏名	宇山 智彦 (うやま ともひこ)	第一部会員
	所属・職名	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	所属委員会(日本学術会議)	地域研究委員会、地域研究基盤強化分科会、アジア研究・対アジア関係に関する分科会
	研究分野(研究テーマ)	中央ユーラシア地域研究・イスラーム地域研究、中央アジア近代史(特にカザフスタン史、知識人史)、ロシア帝国史・比較帝国史・民族問題史、中央アジア現代政治を中心とする比較政治、権威主義体制論、旧ソ連地域における国際関係と日本外交


氏名	大野 由夏 (おおの ゆうか)	第一部会員
	所属・職名	北海道大学大学院経済学研究院・教授
	所属委員会(日本学術会議)	経済学委員会、国際委員会、ワークライフバランス分科会
	研究分野(研究テーマ)	国際貿易政策論(貿易政策がイノベーションや技術発展に与える影響の理論分析)、 産業組織論(イノベーション、特許、知的財産権、競争政策、ワイン経済学)


氏名	大場 みち子 (おおば みちこ)	第三部会員
	所属・職名	公立はこだて未来大学・教授
	所属委員会(日本学術会議)	情報学委員会
	研究分野(研究テーマ)	知的行為・行動の分析と活用、ラーニング・アナリティクス、ソフトウェア工学


氏名 但野 茂 (ただの しげる)	第三部会員	
	所属・職名	函館工業高等専門学校・学校長
	所属委員会 (日本学術会議)	機械工学委員会、生体医工学分科会、理論応用力学分科会
	研究分野 (研究テーマ) 機械工学、筋骨格系バイオメカニクス、医療福祉機器開発、実践的工学教育	

氏名 西村 正治 (にしむら まさはる)	第二部会員	
	所属・職名	北海道呼吸器疾患研究所・理事長／豊水総合メデイカルクリニック・医師
	所属委員会 (日本学術会議)	臨床医学委員会
	研究分野 (研究テーマ) 呼吸器病学全般 (特に喘息・COPD の病因・病態・治療)、呼吸生理学・呼吸調節、肺高血圧	

氏名 吉岡 充弘 (よしおか みつひろ)	第二部会員	
	所属・職名	北海道大学大学院医学研究院・教授
	所属委員会 (日本学術会議)	基礎医学委員会
	研究分野 (研究テーマ) セロトニン神経系の発達と機能障害に関する神経薬理学的研究、衝動性制御メカニズムに関する神経薬理学的研究、恐怖や不安発現に関わる神経回路の機能的分子基盤研究	

氏名 渡辺 雅彦 (わたなべ まさひこ)	第二部会員	
	所属・職名	北海道大学大学院医学研究院・教授
	所属委員会 (日本学術会議)	基礎医学委員会
	研究分野 (研究テーマ) 神経解剖学 (シナプス伝達分子の発現と局在)、神経科学 (活動依存的なシナプス回路発達の分子細胞機構)	

氏名	笹木 敬司 (ささき けいじ)	連携会員
	所属・職名	北海道大学電子科学研究所・教授
	所属委員会 (日本学術会議)	総合工学委員会
	研究分野 (研究テーマ)	応用物理学 (光工学・光量子科学)、光マニピュレーション、ナノフォトニクス、プラズモニクス、微小光共振器・ナノファイバ、ダイナミックナノ分光計測

氏名	本間 さと (ほんま さと)	連携会員
	所属・職名	慶愛会札幌花園病院睡眠医療センター・センター長
	所属委員会 (日本学術会議)	機能医科学分科会、生物リズム分科会
	研究分野 (研究テーマ)	睡眠障害、環境生理学、時間生物学 (生体リズム・睡眠覚醒の研究)、神経科学 (視床下部・自律神経機能、中枢時計機構の研究)、発光・蛍光イメージング

第25期地区会議構成員

第25期北海道地区会議構成員は会員および連携会員で構成されている。

[会 員]

- 石塚真由美 第二部会 (北海道大学大学院獣医学研究院 教授)
- 宇山 智彦 第一部会 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授)
- 大野 由夏 第一部会 (北海道大学大学院経済学研究院 教授)
- 大場みち子 第三部会 (公立ほこだて未来大学 教授)
- 俣野 茂 第三部会 (函館工業高等専門学校 学校長)
- 西村 正治 第二部会 (北海道呼吸器疾患研究所 理事長/豊水総合メディカルクリニック 医師)
- 吉岡 充弘 第二部会 (北海道大学大学院医学研究院 教授)
- 渡辺 雅彦 第二部会 (北海道大学大学院医学研究院 教授)

[連携会員]

- 有村 博紀 北海道大学大学院情報科学研究院 教授
- 石井 哲也 北海道大学安全衛生本部 教授
- 石田 晋 北海道大学大学院医学研究院 教授
- 上田 一郎 北海道大学名誉教授
- 白杵 勲 札幌学院大学人文学部人間科学科 教授
- 内山 幸子 東海大学国際文化学部デザイン文化学科 准教授
- 大野 宗一 北海道大学大学院工学研究院 教授
- 大場 雄介 北海道大学大学院医学研究院 教授
- 岡部 聡 北海道大学大学院工学研究院 教授
- 尾崎 一郎 北海道大学大学院法学研究科 教授
- 笠井 久会 北海道大学大学院水産科学研究院 准教授
- 片桐 由喜 小樽商科大学 教授
- 加藤 昌子 北海道大学大学院理学研究院 教授
- 河原純一郎 北海道大学大学院文学研究院 教授
- 菊地 優 北海道大学大学院工学研究院 教授
- 北 裕幸 北海道大学大学院情報科学研究院 教授

小柴 正則	北海道大学名誉教授、キャリアセンター長、特任教授	本間 さと	特定医療法人社団慶愛会札幌花園病院睡眠医療センター センター長
齊藤 正彰	北海道大学大学院法学研究科 教授	真木 太一	北海道大学農学研究院 研究員、九州大学 名誉教授
櫻井 晃洋	札幌医科大学医学部遺伝医学 教授	三澤 弘明	北海道大学電子科学研究所 教授
笹木 敬司	北海道大学電子科学研究所 教授	南 雅文	北海道大学大学院薬学研究院 教授
佐藤 典宏	北海道大学病院 病院長補佐 / 臨床研究開発センター センター長、教授	美馬のゆり	公立はこだて未来大学システム情報科学部 教授
澤村 正也	北海道大学特別教授、大学院理学研究院 教授、安全衛生本部 副本部長	村越 敬	北海道大学大学院理学研究院 教授
相馬 雅代	北海道大学大学院理学研究院 准教授	森本 淳子	北海道大学大学院農学研究院 准教授
都木 靖彰	北海道大学大学院水産科学研究院 教授	山口 佳三	北海道大学名誉教授
高橋 素子	札幌医科大学医学部医化学講座 教授	山下 啓子	北海道大学病院 教授
武富 紹信	北海道大学大学院医学研究院 教授	山下 竜一	北海道大学大学院法学研究科 教授
玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究院 教授		
田村 豊	酪農学園大学獣医学群 教授		
辻 康夫	北海道大学公共政策学連携研究部 教授		
中小路久美代	公立はこだて未来大学 教授		
長里千香子	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授		
名和 豊春	元北海道大学総長		
西野 吉則	北海道大学電子科学研究所 教授		
庭山 聡美	室蘭工業大学大学院工学研究科 教授		
野口 伸	北海道大学大学院農学研究院 副研究院長、教授		
橋本 雄一	北海道大学大学院文学研究院 教授		
長谷山美紀	北海道大学大学院情報科学研究院 教授		
波多野隆介	北海道大学大学院農学研究院 特任教授		
羽山 広文	北海道大学大学院工学研究院 特任教授		
樋田 京子	北海道大学大学院歯学研究院 教授		
氷見山幸夫	北海道教育大学 名誉教授		
藤田 修	北海道大学大学院工学研究院 教授		
船水 尚行	室蘭工業大学理事・副学長		
古屋 正人	北海道大学大学院理学研究院 教授		
寶金 清博	北海道大学総長		
本間 研一	北海道大学名誉教授		

(氏名は五十音順)

日本学術会議北海道地区会議事務局

北海道大学研究推進部研究振興企画課

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話 (011) 706-2155 FAX (011) 706-4873

